

太田道灌ゆかりの地めぐり

本行寺と道灌物見塚

道灌の子孫、掛川藩（現静岡県掛川市）太田家の菩提寺である本行寺（西日暮里三丁目）にはかつて道灌物見塚がありました。道灌丘碑がその歴史を伝えていています。小林一茶が何度も訪れ、「陽炎や道灌どのの物見塚」の句を詠んでいます。



本行寺

諏方神社

日暮里（新堀）・谷中の総鎮守諏方神社に伝わる縁起には、道灌が登場します。日暮里に出城を築いた時に、鎮守となり、五石の領地を賜ったと記されています。



諏方神社

石浜神社

神亀元年（七二四）に聖武天皇の命によつて創建された神社です。源頼朝が奥州征討に際して祈願し、大勝したことから社殿を寄進しました。蒙古襲来の折にも鎌倉将軍が必勝を祈願したとも言われています。境内には、亀田鵬斎の詩碑や「伊勢物語」の歌碑があります。また、神社周辺には、道灌が庇護した武蔵千葉氏が抛城とした石浜城があったと伝えられています。



石浜神社

青雲寺

青雲寺は、江戸時代に花見の名所として賑わったことから、「花見寺」とも呼ばれていました。境内本堂右脇に「日暮里舟繋松の碑」があります。船繋松は、太田道灌の皆に荷を運んでいた舟人が目印とした高台の松で、江戸時代、青雲寺の境内だった今の西日暮里公園にありました。また、「南総里見八犬伝」の作者として有名な滝沢馬琴の筆塚の碑などがあります。



青雲寺

泊船軒

寛永四年（一六二七）に文京区の湯島で創建されました。台東区を経て、大正十二年（一九二二）の関東大震災で被災し、現在地に移転しました。その際、この地域が太田道灌の山吹の里伝説の地であることにちなんで、境内に「山吹の塚」が設けられました。



泊船軒

下尾久石尊

堂内には二つの石が祀られています。太田道灌の家臣・高木隼人が出家して神仏を崇拝していたところ、観音菩薩の化身の石神が衆生救済のため出現しようという夢告を受け当地を訪ねたところ、異形の二つの石が出現したため、出世石尊大権現として祀ったといわれています。

三河島の山吹の里伝説

道灌は鷹狩りの最中に、突然のにか雨に遭い蓑を借りようと農家に立ち寄りました。その時、娘が出てきて山吹の花を差し出しました。道灌は蓑を借りようとしたのに花を出されたので、腹をたてます。後で家来から『七重八重花は咲けども山吹の実のひとつだになきぞ悲しき（兼明親王）』という古歌をご存知ですか。「実の」と「蓑」をかけて、お貸しできる蓑が無くすみませんというお詫びの意味を込めて、山吹を差し出したのですよ」と教えられます。道灌はこれを恥じて、和歌の勉強に一層励んだとされています。

「山吹の里」伝説には、荒川区の花の木（荒川六丁目）、泊船軒（荒川七丁目）、豊島区高田、埼玉県入間郡越生（おごせ）町など、各地に伝承地があります。

日暮里駅前銅像

「山吹の里伝説」にちなんだ鷹狩り装束の道灌の騎馬像が日暮里駅前に建っています。この像は、平成元年十二月に、僧侶で彫刻家でもあった橋本活道氏が制作し、元東京都知事の鈴木俊一氏が「回天一枝」と題しました。

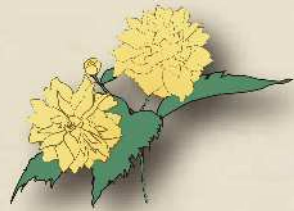
「山吹の花一枝」像は、「山吹の里伝説」の少女の姿を表現した作品で、平成三十年五月に設置されました。この像は、荒川区顧問で彫刻家の平野千里氏によるものです。

いずれも東京荒川ライオンズクラブから荒川区に寄贈され、太田道灌ゆかりの地「山吹の里伝説」の地にふさわしい作品として、荒川区の日暮里駅前に設置されています。

七重八重

花は咲けども山吹の

実のひとつだになきぞ悲しき



山吹の花一枝